

この地域だからこそ意味のある
取り組みを大切にしたい



育

苗ハウスが空になる期間を有効活用して白カブなどを栽培し、市場や直売所へ出荷しています。

伝統と活気ある地域で

ハウスの有効活用や 県独自の栽培を実践

生まれ育った 地域に貢献したい

彦根市田附町
柴田ファーム
柴田 明宏さん(37)

主な栽培品目

作物名	作付面積
水稻	18ha
小麦・大豆	10ha
「万木かぶ」	10a
白カブ	8a
その他 葉菜類	

(令和3年度)

「自分もいつかは家業を継ぐんだらうなあ」と幼少の頃から思い続け、平成22年に親元就農しました。私が農業を當む稻枝地域では、多くの集落に各世代の担い手が育つており、いわゆる「世代がつながっている」地域です。私たちの親世代の仕事に対する姿勢が良かつたのだなあと日々実感しています。そんな伝統と活気のある稲枝地域で、私も同様に子どもたちの世代ベバトンをつなげられるような姿を見せていきたいです。

J A 東びわこが重点園芸品目と位置付ける、育苗ハウスを有効活用した白カブを市場や直売所へ出荷しています。水稻では全体の25%の圃場で鉄コーティング種子による湛水直播栽培を実践し労力分散に取り組むほか、県が推進する事業「魚のゆりかご水田プロジェクト」にも取り組んでいます。これは琵琶湖から魚が遡上しやすい環境を作ることで、魚が田んぼで産卵成長し、やがて琵琶湖へ帰っていくといった昔ながらの自然のシステムを守る取り組みです。琵琶湖の水を使って米を作る以上、食べてもらう人だけでなく琵琶湖や湖魚にも優しい栽培

をしたいと考えています。私が農業に取り組む上で、「この地域でしかできない」「この地域だからこそ意味がある」ことを大切にしています。たとえ結果がすぐに出ないようなども、取り組む意義が大きいと感じたことは、粘り強く続けていきました。今シーズンは新たに県の伝統野菜「万木かぶ」の栽培に取り組み、美浜館で11月頃に設置されていた「かぶらのはさ掛け」を埋め尽くそつがんばりました。生産することで種を守り、また風物詩としての「かぶらのはさ掛け」を遺していく。この地域で生まれ育ったからこそ、この地域に貢献できるような取り組みを今後も進めていきたいです。



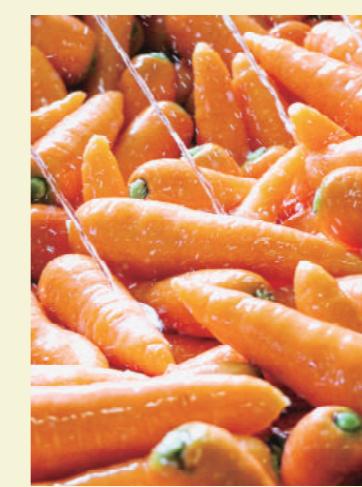
J A 東びわこの職員と収穫した「万木かぶ」の出来栄えを確かめる柴田さん

Search!

今月の表紙

今月の表紙は、多賀町の特産品「多賀にんじん」です。同町で冬の厳しい寒さを乗り越えるため、他産地のニンジンと比べて糖度が高いとされているのが特徴で、「多賀にんじんクラブ」の7戸が約3ヘクタールで栽培しています。

収穫された「多賀にんじん」は、多賀ライスセンターへ持ち込まれ、洗浄機で土をきれいに落としてから出荷しています。



Contents

- 4 特集 JA東びわこの福祉事業
- 6 今日からはじめる 家庭菜園
- 8 ピックアップ! 地域のEすとニュース
- 10 あつまれ 地域のEひと
- 12 スタッフルーム
- 14 旬の野菜おいしさ伝え隊 おすすめレシピ